

将来ビジョン及び必要な取組・事業

提案主体名	石川県七尾市	※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。
提案プロジェクト名	能登島「ECO島」化 “国際環境宝島”プロジェクト	※同一主体で複数の提案をする際は、別名称としてください。
都道府県名	石川県	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。
対象地域	市町村名 七尾市能登島地区	※複数の市町村にわたる場合は「、」で区切って記入してください。 ※特定の地区を想定している場合は、それも合わせて記入してください。
① 関連する分野	環境（ 低炭素、生物多様性 ） 超高齢化（ 人口増による活力向上、高齢者移動 ） その他（ 産業創出、コミュニティ維持・再生 ）	※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。

② 将来ビジョン(環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標 (2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿))

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

能登半島中部に位置する能登島は、石川県七尾市の七尾湾を塞ぐ形で浮かぶ、面積46.78km<sup>2</sup>、周囲長71.9kmの島である。2橋により半島に結ばれた陸けい島であり、島内産業はほぼ一次産業および民宿等の観光産業に限られ、高齢化と人口減が進み、新たな振興策が急務となっている。一方、開発の手が入っていない島の広大且つ良好な自然環境は、新たな環境関連産業の舞台として関心が高まりつつあり、また、環境資源に着目した新たな観光の可能性にも、年間80万人以上が来訪する北陸有数の温泉地・和倉温泉との連携において注目が集まっている。このような背景の中で、電気自動車(EV)の組立と走行テストを中心とした技術開発拠点化を超高齢化をむかえつつある島内住民の環境対応型移動手段の確保とあわせて実施し、また、生物多様性に富む島の自然環境を保全推進とともに農業を含め立体的に活用する事業も進めたい。これら事業の目標を整理すると、環境価値創造の分野では、低炭素化を2020年度までに、今後定めた目標数値にまで到達させ、生物多様性の増進に関しては自然農法の推進とともに2020年までにモデルの構築を完成させる。再生可能エネルギーによる電力自給については、今後の技術加速も視野に入れて2030年度までに完成形のありかたが見えるように取り組みたい。これに社会的価値向上と人口増を付随させる形で、2030年には一定のモデルを構築、2050年には日本の誇る環境・超高齢化対応ライフスタイル実現島“国際環境宝島”として世界にその名をとどろかせる。

③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方)

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

〇島しよ型ECOライフスタイルの高度化確立および数世代のための原則導き出しの実現  
 1. 自然環境・地形を活かした島しよ型環境産業の確立振興： 島しよ型環境産業のありかたは都市部と異なる諸条件のもとに展開される。能登島の場合、陸けい島ならではの適度な隔絶と変化に富んだ交通量の少ない道路地形、利用可能な土地の存在と、豊かな自然環境など、島独自の環境型産業の育成が可能であり、その産業育成を通じて島全体の環境価値を高めることができる。  
 2. 環境技術複合利用による島全体のECO島化： 隔絶された島環境の中で既存の環境技術を、無理なく島のライフスタイルに合致させつつ、複合的に取り入れることで、島全体のイメージをも高めることができ、このイメージアップ化は、島民を含めた事業関連者の求心力となり得る。  
 3. 環境をベースとした産業振興と観光との親和性の中で実現： 島そのもの年間来訪者数40万人の観光地であり、また、対岸の七尾市内・和倉温泉は年間80万人超が訪れる北陸有数の温泉地である。この集客力と、広域力を活かして、島への人口流入を促進させ、環境型産業の振興実現を図る。  
 4. 環境価値向上と社会的価値向上の歩調を合わせた実現： 島での環境事業に関しては、同様課題となっている超高齢化＝人口減少の解決策と並行して進めなければ推進できない。地域の社会的価値を向上させる取組と環境価値を向上させる取り組みは、ここの島しよ部では不可分であり、これら両分野の歩調を合わせた推進、両分野の向上を一度に実現させる取組を行う。

④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業(技術・システム、サービス、仕組み等)

番号	取組・事業の名称 ※異なる名称を付けてください。	取組・事業の概要 ※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。	取組・事業の期間	実施主体・運営主体 ※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を( )内に記入してください。	価値、分野の種類	国の支援の必要性 ※必要性がある場合、「〇」を記入してください。
(1)	EV産業集積化による低炭素化島推進	沿岸道路・環状道路等において島内には平坦地帯・起伏地域を含むEVに有利な良好な道路環境が存在する。過渡期も少ないこの島内道路を「公道EVテストコース」として規制緩和活用することで、テストコースが無くとも導入促進とできる。併せて島内環境改善したEV推進拠点を整備。販売・整備センターが集まっている工場地域の共有や技術交流据地を推進し、最終的には住宅系プラグインの島内居住型産業集積を創出する。これにより、島という適度な閉鎖空間の中で低炭素化を推進し、環境価値に富んだ新たな島しよ型ECOライフスタイルの意識醸成を図る。	調査・研究・実証 H24～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、低炭素 社会的価値、地域産業振興	〇
(2)	島しよ地域専用“ローカライズEV”プロトタイプモデル開発	七尾市街地等で20分程度の距離にある能登島は、生活圏域として七尾の市街地企業群に依拠している住民が多い。自動車は通勤等日常の足であることから住民としての活用面から見ると、都市型ライフスタイルに合ったEV開発はコンセプトを考えた「島しよ型EV」が誕生する可能性及び必要がある。すなわち、①島内及び七尾市街地までの道の走行距離のみ満足できればよい。②必要以上にコンパクト化することによる価格とシフトに(島内民家にはガレージスペースが充分にある) ③EVでは島内産品の販売・購入など可能な無難な商品性を確保し、島という島ならではの地域課題に徹底対応したローカライズEVを開発、島しよ地域で応用可能なプロトタイプを確立する。	調査・研究・実証 H24～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、低炭素 社会的価値、地域産業振興	〇
(3)	島内移動完全EV化	超豪華など島住民の交通弱者の移動について既存の交通事業者(観光バス・タクシー)に頼っている現状だが、軽便なタクシーの日常利用は難しく、またバスの便数も増減に少なく、またバス事業者も補助金依存経営である。上記ローカライズEVを活用するなど、島内タクシーの完全EV化を図るとともに、島内交通車はEVのみを定めて島内自給車とするパーク・ライドを実現し、これにより低炭素化を実現する。	調査・研究・実証 H24～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、低炭素 社会的価値、超高齢化	〇
(4)	島しよ近海用電気動力漁船開発	島の漁業はほとんどが沖合いで開漁、波静かな七尾湾などで行われており、漁法によっては電気動力船で代替できる可能性がある。EV化はEIS(electric ship)の開発も島内関連での実証実験を行う。	調査・研究・実証 H25～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、低炭素 社会的価値、地域産業振興	〇
(5)	生物多様性推進拠点化	豊かな自然が手付かずに残る島内の自然環境を積みと、今後需要が高まるエコツーリズム興隆を視野に入れて、生物多様性の保全推進とインタープリター人材育成を行う。具体的には、調査による島内重点区域の設定及び継続的モニタリング、(次項目的)自然農法振興に伴う生物多様性推進、能登半島生物多様性研究拠点およびインタープリター人材育成機能の設置(能登島生物多様性研究・インタープリター養成学校)等である。	調査・研究・実証 H24～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、生物多様性 社会的価値、地域産業振興	〇
(6)	農業の環境化に係る拠点化(各種自然農法見本園島内集積化)	農地と山林が接近し、様々な谷戸が非連続に存在する能登島の地勢を活かして、生物環境と共存できる農業のあり方を比較研究できる自然農法見本園を島内各地に設置する。農家に依存する慣行農法から一歩離れた無農薬・減農薬農法は様々な農法が全国で推進されつつあるが、ブランドとして成立させる島ならではのあり方の構築には、現実性に立脚した比較検証が行われる必要がある。面積の広い能登島では、島内のエリアごとに間作効果が異なると思われる。併せてつながらる平島と結ばれている橋での過渡期振動による発電や対岸の高温とある和倉温泉の温度差発電など、ECO発電への研究課題も多岐、これを島内各地の自然環境と農産物の基本条件を見出すことができる。また、これにより自然ガイドを兼ねた若年農業従事者の流入移住を促し、高齢化に悩んでいる農村コミュニティの活性化を図る。	調査・研究・実証 H25～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、生物多様性 社会的価値、超高齢化・地域産業振興 その他、コミュニティ再生	〇
(7)	海山循環による一次産品量・質の向上および島内カーボンオフセット完結	地域内では一部漁業者による山林への植林活動が既に始まっているが、これを拡大し、全島が「海山循環による豊かな海産物及び農産物の島」となるよう、推進する。これにより島内産品を「海山循環」による環境に配慮したブランド化し、またその次に必要とする、そのブランドイメージを高める。将来島内海産物農産物高品質化による高付加価値のカーボンオフセット料を島内産品に含めたい。併せて山林の植林や環境に関するカーボンオフセットクレジットの創出の認証取得も併し、島内で生産される島産品に付加されたカーボンオフセット料が島内産品カーボンオフセットクレジット購入に認められるように、島内完結型カーボンオフセット事業を確立する。	調査・研究・実証 H24～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、生物多様性 社会的価値、生物多様性 振興 その他、コミュニティ維持	〇
(8)	再生可能エネルギー複合活用電力自給	能登島周囲の海は能登半島の内海として波が少なく、基本的に風も強く、太陽光も冬期は十分に期待しにくい。森林からの水通のあるもの、高い山があるわけでも豊富な水脈があるとはいえない。しかしながら居住世帯数は多く、上記のような再生可能エネルギー発電を組み合わせることで効率的に導入し取り入れていくことで、ECOな発電を取り入れたスマートアイランドとしてポテンシャルを確立することができると考えられる。併せてつながらる平島と結ばれている橋での過渡期振動による発電や対岸の高温とある和倉温泉の温度差発電など、ECO発電への研究課題も多岐、これらを調査研究し、コスト的にも最適な組み合わせを見出す。スマートアイランドに活用する研究成果を実用化に供するからで推進していくことができる。	調査・研究・実証 H25～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	環境価値、低炭素	〇
(9)	能登島ライフスタイルの健康価値商品化	環境や漁獲が豊か島内産地産物が実現でき、農業コミュニティが獲る。「メッシュアップ」で環境の良さが当たり前になっている「能登島の暮らし」の価値は、その社会的価値を、感覚的にではなく科学的に検証することで、そのライフスタイルのエッセンスを、超高齢化・過疎化が進む地域へ応用活用する。島産品(ライフスタイル)指導サービスの能登島からの輸出、ライフスタイル指導者＝アイランドライフスタイルインストラクター(アイランドセラピスト＝育成等)を進めることができると考えられる。こうした「島暮らし」に関する価値の差別化研究および商品化の研究拠点を前述の自然農法研究機関の一部併設する形で設け、交流拠点の拠点とする。	調査・研究・実証 H25～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	社会的価値、超高齢化	〇
(10)	観光力を活用した社会貢献型“ECO島づくりツーリズム”創出	前項までの取組によるECO島づくりは、高齢化・過疎の現状の住民だけでなく、得られないものであり、人的・モノの内部流入が必要である。これを取組を通じて最終的には住人口増を図っていくことになるが、初期導入段階の力として、多くで結ばれている和倉温泉を含めた島内及び周辺観光客等を活用する。観光においては、エコツーリズム・グリーンツーリズム・ブルーツーリズムなどのコースが高まっている。これらは既に能登島を舞台として一部展開されているが、これらからさらに一歩踏み込んだ「社会貢献型長期滞在旅行商品づくり」や、あるいは、宿泊施設を活用した試験的滞在の仕組みづくりを行う。「ECO島づくり」に主体的に参加するメンバーを募集。新たなコミュニティ参加型観光を当地域で確立し、当該地域においてはECO島づくりの魅力を高めるとともに、全国的には新たな観光を確立するための取組を行う。	調査・研究・実証 H25～29	七尾市を含む協議会で実施・運営	社会的価値、地域産業振興 その他、コミュニティ維持	〇

⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

EV産業振興に関しては、高齢者移動手段の問題や、環境負荷低減型一次産業の推進、観光推進など、複数の課題に一度に対応できるインテグレート型事業である。これに併せて、生物多様性の推進と観光を結び付けた需要創造によるインタープリターの育成で若年移住者を増やし、農業および、漁業と連関した山林整備・活用を図る。これら事業の実現の“キモ”は、島しよ地域が直面する超高齢化に対するMUSTな課題としての人口減少食い止めであり、この課題解決のために上記のように、環境価値と社会的価値を向上させ、実利可能な経済価値を産める「島しよ型次世代産業振興」を推進させる。